

KAS

風の谷

びゅう

VIEW

社会福祉法人 風の谷

相模原市田名7236-3

発行責任者 政野 光廣

042-760-1033

<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>

e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



今年も、
皆さんの笑ガオーに
お会いできます様
に……。

【2010年 新春号】

◇巻頭文 P 2

◇研修報告 P 4

◇後援会のページ P 6

◇自閉症支援センター P 3

◇自閉症について P 5

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲 910-1 コープ野村 6-109

毎月15日発行 購読料1部 50円

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。平成22年の新春を迎え皆さまには新たな気持ちでご活躍のこととお慶び申し上げます。昨年の総選挙により民主党政権の誕生となりましたが、世相はデフレ、リストラ、格差社会、先の見えない景気回復と厳しい状況が続きます。一人一人の生活者に沿った将来の生活が見通せるような政治が切に望まれます。

さて、当社会福祉法人風の谷は、昨年末に新しい事業計画を立ち上げ「やまびこ工房」第2棟新築事業として着手いたしました。ご支援、ご協力をいただきました皆様に深くお礼申し上げます。

社会福祉法人風の谷は、障害者支援を発展的に継続して提供することを目的に平成9年に設立され、翌年の平成10年に自閉症の支援に特化した知的障害者通所更生施設『やまびこ工房』を開設しました。開設以降、相模原を中心とした地域の『自閉症問題』を抱える人たちにとって、今やなくてはならない社会的資源として大きな役割を果たしてまいりました。現在、神奈川県知事より指定障害福祉サービス事業者の指定を受け、平成18年10月から居宅介護、行動援護、短期入所、相談支援等を実施し、平成19年4月からは生活介護を併設する形態で障害福祉サービス事業を行っております。また、上記の事業を40名定員の生活介護事業所をメインとして行っておりますが、環境面で個別的な配慮に基づく支援を必要とされる方が多く在籍しており、相当に手狭となってきております。この建物の完成でより広いスペースを確保し適切な環境を整備できるものと期待しております。

併せまして専門性の高い安心して利用できる短期入所事業への期待も大きく、自閉症支援の専門施設としてその期待に応えるため、室数を増やし利用定員の増を図る等事業を拡充し、地域の利用者のご期待に対応していきたいと考えております。

一方、生活介護や居宅介護事業の利用に先立つ在宅の障害者や児童等からの相談件数も最近では増えてきております。相談スペースの確保、プライバシーへの配慮など、利用者の立場に沿った相談支援事業をより充実させてまいります。

本年度も「すべての活動は利用者のために！」を運営の原点とし、職員と共に確認し合い、この10年間で培った知識、技能を糧に一層の研鑽を積み、魅力あるサービスを提供すると共に利用者満足度の高い法人、施設運営を目指したいと思っております。

最後になりましたが、皆様方のご健康とご多幸を心からお祈りいたします。

社会福祉法人 風の谷
理事長 政野 光廣

【事業の名称】 障害福祉サービス事業「やまびこ工房」第2棟新築事業

【事業施行地】 ①所 在 相模原市田名字上新宿7236番1

②面 積 1095.45㎡

【土地の利用計画（用途別面積）】

用 途	面 積 (㎡)	備 考
建 築 物	337.05	鉄骨造平屋建て
駐 車 場 他	758.40	一般車両19台 マイクロバス2台
合 計	1,095.45	

着工の時期 平成21年10月

完成の時期（工事の完成予定時期） 平成22年3月

事業開始 平成22年4月 予定

「相模原自閉症支援センター」便り

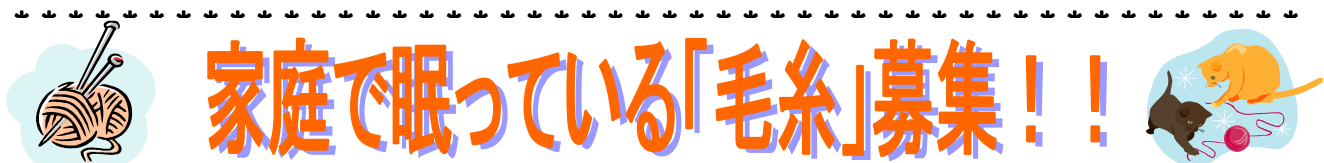
新年明けましておめでとうございます。皆さまの日頃からの応援のおかげで、無事に新年を迎えることが出来ました。本当にありがとうございました。

さて、相模原自閉症支援センターでは昨年も「移動介護」「行動援護」を中心に、「短期入所」「相談支援事業」等々と事業を展開してきました。特に「移動介護」「行動援護」は元旦以外1/2から12/31大晦日までの364日ほぼ毎日稼働していました。年間1,800件ほどの活動件数を地域で展開してきたのですが、生活介護事業や短期入所事業のような施設建物内での支援と違い、実際の社会に出た活動は並大抵の現場ではありません。社会はまだまだ自閉症に対しての理解も薄く、タイミングが合わなくて、なかなか動き出すことのできなかった時などで冷たい視線を浴びることもあったようです。しかし、同時にやさしい言葉を掛けてくださる方もいっしょり、地域の支えも感じる事が出来ました。相模原自閉症支援センターの事業は、そのような一番大変な実社会の中で、地域支援を担ってくれているヘルパーさん達に支えられているものなのだと、あらためて感じた一年でした。今年も地域支援を良いものにしていき、利用される皆様の満足度を高め、地域に積極的にアピールしていく努力を怠らないようにしていきたいと思ひます。

もう一つ重要な事業に相談支援事業があります。この「相談」が確実に出来ているかが、良い支援に繋げられるかどうかの肝になるのだと思ひます。相談といつても内容や状況は様々だし、重みも変わってくると思ひます。そんな中、自立支援法で三障害が一緒になり、障害種別の垣根が取り除かれようとする流れにあり、この「相談」も法人や立場の垣根を乗り越えて、すべての相談にかかわる人たちが、同じく地域の「相談」を受けていく仲間であるという意識を持つことが重要なのだと思ひます。相模原自閉症支援センターも相模原市の相談支援事業所としてその機能を担う位置づけにあります。現状に満足せずに、相模原市にとってより重要な、当事者にとつてもより必要とされる相談支援事業所を目指していけたらと思ひます。短期入所事業も、2010年4月には新たなものに生まれ変わります。単独型の短期入所はあまり類を見ないもののだと思ひます。入所の施設に併設している短期入所ではなく、地域のなかで生活している人達が身近な短期入所を利用しながら、自然に地域生活を継続していけるような短期入所事業になればと思ひます。奇しくも相模原市の政令指定都市移行と短期入所事業の拡大は一緒の開始となります。これからも相模原市を中心にした障害福祉体制のなかで、常に自閉症者の立場に立っていく「風の谷」の独自性を出して、相模原市での存在価値を見出していけたらと思ひます。

相模原市での存在価値を高める為にも、風の谷後援会、やまびこ工房家族会や相模原やまびこ会とのネットワークが重要になります。さらに、自立支援協議会をはじめとする福祉ネットワークも太く強くしていきたいと思ひています。

福祉業界の人材不足が騒がれる中、法人としては幸いにも、すばらしい出会いにめぐり合うことが出来ました。そのメンバーと共に“困難さを抱えているのは誰なのか”、“誰の為の支援なのか”をもう一度考えながら、新たな気持ちで支援をスタートさせたいと思ひます。今年も変わらぬ応援宜しくお願ひ致します。(西村三郎)



やまびこ工房では、「毛糸」を使って様々な製品を作っています。ご家庭で使われない「毛糸」をお持ちの方は、ご寄附いただければと思ひます。やまびこ工房で素敵な製品に生まれ変わります。

社会福祉法人風の谷 やまびこ工房

〒229-1124 相模原市田名7236-3 042-760-1033

担当：鹿野まで

研修報告 全国自閉症者施設協議会～札幌～

昨年(2009)の11月5日、6日の報告である

5日(木)

開会記念講演は北大の田中康夫先生が担当された。最近の自閉症問題や発達の定義など、支援の基盤となる事柄について考察をすすめ、「発達障害とは生活障害である」つまり、本人は自らの発達障害に困っているのではない、思うようにいかないことに悩んでいるのだと持論を展開されていた。さらに支援者のあり方についても提言され、支援者同士が連携し、それぞれが対等で、お互いの役割を認め合い、全うすることにより、多くの課題が消滅すると述べられた。批判する前に、まず「大変だね、ご苦労様」と声をかけあうなど連携時の心得にまで言及されていた。

シンポジウムは「くらしやすさ」がテーマだった。当事者を代表して32歳女性のアスペルガー症候群の方が発言された。27歳の時に診断されたのであるが、当時は2次障害もあったということだが、よい支援が受けられ、驚くほど回復したということだった。27歳まで理解されないで過ごしてきたことは聞くに堪えない。もっと早く診断されればと思ってしまうが、親の立場の方から「くらしやすさ」は本人だけでなく、家族、さらに定型発達の人たちにとっても達成されるべきで、お互いの関係性の中に本来の「くらしやすさ」があるという意見があった。確かに発達障害を理解してくれる定型発達の人が増えれば、“気づき”は早くなるし、お互いにとってもくらしやすくなるはずだ。発達障害を理解してくれる地域の人たちはありがたい存在だ。一方高機能自閉症・アスペルガー症候群の方(関係者も含め)と知的障害を伴う自閉症の方とが対立あるいは無関心にあるという内部問題?についての言及があった。なんとなく感じてはいたが、目をつぶっていた問題で、見過ごしてはならないことに思う。自閉症理解にとっては大きな損失になってしまう。この問題の解決方法はすぐには思い浮かばないが、まずは意識することから糸口が見えてくるのだと思う。

6日(金)

厚労省の高原障害福祉専門官より**行政説明**を受けた。長妻大臣は障害者自立支援法を廃止し、新しい制度を制定すると表明されているが、具体的な方針は指示されていないとのことだった。今後のことはやはり不安だが、連立政権の合意内容としては、制度の谷間がなく、利用者の応能負担を基本とする総合的な制度をつくるとのことだった。“制度の谷間がなく”に期待したい。

鼎談 「どうなる?自閉症支援」をテーマに現在施設が抱える問題点や課題を挙げて話し合われた。強度行動障害を支援する上での課題点として職員養成を挙げ、専門性の向上も然ることながら、障害者としてみる前に、同じ人間であることを強く感じることでできる職員の養成を課題として提起されていた。その他、マンツーマンの支援や夜間の職員体制の問題、ユニットケアの成果や新たな職員シフトの提案、虐待防止策についてなど、健全な支援を行うための職員養成・体制、支援方法、利用者の人権を守るための体制といった念頭においておかねばならぬことが網羅されていた。

分科会 私は行動障害のある方に対する支援報告を聞いた。入所施設利用者の他害やもの壊しに対する行動に対し、3～5年にわたる支援についての報告であった。再構造化や障害特性を探ることを繰り返し、一方で家庭との連携を図りながら利用者向き合い続けた粘り強さに、意を熱くするものがあった。

次の日には同じく札幌でノースカロライナ大学メジボブ教授を招いての自閉症セミナー(はるにれの里主催)にも参加する機会を得た。自閉症支援の歴史に始まり、最後は**コアバリュー**と称して支援者のこころの持ち方について説かれていた。一番大切なところはやはり人間性に行き着くのだろう。

多くの方の苦労あってこのようなすばらしい3日間になったのだと思う。感謝の気持ちでいっぱいだった。自分に何ができるのかを考えながら札幌を後にした。

その夜は酒の席にいて、障害者の仕事や就労について盛り上がっていた。相模原おやじの会である。知っていることを伝え合うだけで、人と人をつなげてくれるだけで、大きな力が生まれてくるのだと思う。ヒントはきっと足元にあるに違いない。身近なところから始めたい。(薬師丸和浩)

自閉症について ～正しく考えるために気をつけること

今回、直接には自閉症と関係がないかもしれませんが、日々の支援を考える中での、「考え方」を見直してみようと思います。その「考え方」というのは、「情報を拾い、推論して、結論を導き出す」という誰もが普通の生活の中でやっているような「考え方」です。例えば、

A：「最近、体が痒くてねー」

B：「このところ空気が乾燥してるからじゃないの？」

⇒推論①

C：「あれ、そういえば、最近猫を飼い始めたって言ってなかったっけ？」⇒情報提供

A：「えっ… もしかして猫アレルギー？」

⇒推論②

といったものです。上の例は、「情報を拾い、推論して、結論を導き出す」というよりもただの世間話ですが、日々の支援では、「正しく情報を拾い、「正しく推論して、結論を導き出す」ことを目指さなくてはなりません。推論と検証を繰り返し、目的に向かって結果を積み上げてゆくことが必要です。支援についての話し合いが単なる世間話にならないように、いくつか気をつけたいことを挙げていきます。

①「理由がある意見」と「理由がない意見」

まず、はじめに「理由がある意見」と「理由がない意見」を分けます。「理由がない意見」の中には、単に好みだからとか、自分の経験ではそうだったから、常識だから、といったものがあります。更に「理由がある意見」の中でも根拠としての情報は正しいか、また推論の仕方は妥当か、ということを確認する必要があります。

「理由がある意見」は「科学的な意見」と言い換えられるかもしれません。

②情報の検討

次に根拠となる情報を検討します。私たちは、記憶が常に曖昧さや主観を伴い、あまり当てにならないことを経験的に知っているので記録をとります。その上で、その記録が必要な情報を拾っているかどうかや、記録から出てきた数字の算出法、その数字の解釈の妥当性も問題になります。また単純に手元にある情報が少なすぎないか、偏っていないかということも気をつける必要があります。

③推論の検証

	猫がいる	猫がいない
体が痒い	A	B
体が痒くない	C	D

問題の原因を推論した時、その原因が結果と連動していません（共変関係）。その時「AがあるときBもある」と同時に「AがないときBもない」と言えなければ共変関係とはなりません。これを整理して分かりやすくしたものが四分割表です。右の表の例だと、猫がいる時・体が痒い(A)と猫がいないとき・体が痒くない(D)は注目されますが、BとCは見落とされがちです。常にBとC(反証例)を考慮しないと片手落ちの議論となってしまう。例えば、猫を飼うのをやめたのに・体が痒い(B)となった時、体が痒い理由として、「猫アレルギー」は可能性が低くなるので、別の原因(仮説)を考えます。それは「空気の乾燥」かもしれないし、「猫が連れてきたノミ」かもしれません。もしかすると「猫が残していった毛」が原因となる可能性もあります。これらの仮説がきちんと共変関係として証明できるように、条件が重ならないよう〔空気の乾燥⇒肌の保湿〕、〔猫が連れてきたノミ⇒バルサンを焚く〕、〔猫が残していった毛⇒コロコロで掃除・洗濯〕というように一つ一つ整理して対策を立てた上で、四分割表のように考えてゆきます。ここで気をつけたいのは、体が痒くなる原因が複数ある場合も少なくない、ということです。例えば、体調が悪いときだけ・猫が残していった毛に体が反応して痒くなる、といった場合です。

ざっと見渡しただけでも「情報を拾い、推論して、結論を導き出す」なかに、確認しなくてはならないことがこれだけあります。実際、毎日仕事をする中でこれらを常に検証しているかという疑問で、自分の思考のパターンや癖、それから感情に流されながら試行錯誤しているのが現状です。自分の考え方を客観的に振り返ることは、とても難しいことだと思います。せめて、常に「これとは別の視点(方法)があるかもしれない」を心の中にとっておくことで、柔軟に少しでもベストに近づけるような議論を心がけたいと思っています。(鹿野)

後援会のページ

やまびこ工房家族会の皆様、やまびこ工房職員の皆様 明けましておめでとうございます。皆様も穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

今年は、バンクーバーでの冬季オリンピック、南アフリカでのサッカーワールドカップが開催されます。日本人選手、日本チームの活躍により、暗い話題の多い日本に、明るいニュースが伝えられるよう期待します。

また、今年の干支は寅（虎）になります。ご存じのとおり、虎はライオンと並び獣の頂点に君臨する動物であり、勇猛果敢の象徴として人間にも崇められ、高貴さも備えた動物です。沈滞している日本が、猛虎千里を駆けるがごとく、不況を蹴散らして繁栄へ向かって突き進んで欲しいものです。

さて、昨年の衆院選挙で、自民党から民主党への政権交代が実現し、官僚主導から政治主導への変革が唱えられております。これに伴い、福祉政策も大きく変わって行くこととなります。「障害者自立支援法」に替わる「障がい者総合福祉法」（仮称）の成立が検討されています。種々な観点からの見直し、改正が見込まれますが、真に障害者からの視点に立脚した見直しが実現するよう願っています。

やまびこ工房に於いては、現在進行中の増築工事が本年2月末頃には完成する予定であります。これにより、短期入所、相談事業等の一層の充実が期待されます。やまびこ工房が、家族会の皆様の、より充実した地域生活の一助となれるよう希望します。風の谷後援会としても側面から支援してゆく所存です。

今後とも、よろしくご協力下さいますようお願い申し上げます。 風の谷後援会会長 鈴木秀美

【更新・個人】平成21年10月1日～平成22年1月20日（敬称略）

（相模原市内）

政野光廣、小林義明、高林清、島森隆夫、菊間政好、野崎廣子、西田明美、宮田勇、萩原春夫、萩原莉恵子（その他の地域）

有路富夫（海老名市）、斉田安司、斉田順子（世田谷区）、辺見貴江子（仙台市）、藤野喜友（厚木市）、小山かおり、竹花三枝（町田市）、上野悟、村井伸芽（川崎市）、上城功（八王子市）、川野敏雄（苫小牧市）、江澤恵（さいたま市）、内藤美也子（横浜市）、才田孝則（松戸市）

【更新・団体】

日本キリスト教会上溝教会

【ご寄付・ご協力】

新宿自治会、新宿小学校、(有)伸和トラスト、(株)朝日建設、創デザイン工房、キャタピラー東日本株式会社、依知の会、ECOクリーニング、チョコビカフェ、ワーカーズコープ・キュービック、コープ田名店

他大勢のみなさま

ありがとうございました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

お問い合わせ先

〒229-1124 『風の谷後援会』事務局

相模原市田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内 TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345